



赤西貝を食べて

～里海・七尾湾を守り育てるキャンペーン～

七尾マリンシティ推進協議会が企画

～刺身のイメージしかないあの赤西貝が!!～



『赤西貝の和風カルパナーラ』
レストラン リオ



『赤西貝の靴漬け』
番伊 青海楼



『赤西貝とメカブの
姫鱈いしり漬』
まいもん処 いしり亭



『赤西貝の四川ピリ辛炒め』
中華乃家



参加者が赤西貝について語り合う

里海・七尾湾を守り育てる活動をしている七尾マリンシティ推進協議会が『赤西貝キャンペーン』を実施。協賛飲食店が赤西貝に独自の味付けをして、新しい赤西貝の食べ方を知ってもらおうのが狙い。

参加者は「刺身のイメージしかない赤西貝が、工夫次第で新たな食感が生まれる」と感動。また、一品の注文で10円が寄付されるシステムで、キャンペーン期間に18,914円の善意が集まった。

関係者からは「このような機会が増えるように努力したい。7月10日(日)に『グリーンビーチ・なお』を開催し、寄付金を活用し、稚魚を放流する予定」と話す。こういった試みが多種多様に広がるきっかけになればと願う。

七尾の魅力をギュツとお届け!!

～御祓川大通り沿いに人集う!～



『のと・七尾元気まつり2011』



『なつかしの写真展』



『ガッツ石松氏と輪島氏のトークショー』



『御祓川大通り完成式』

2月12日からの2日間、御祓川大通りを中心に、さまざまなイベントが行われた。『御祓川大通り完成式』から始まり、『のと・七尾海鮮七輪まつり』や『ガッツ石松さんと元横綱輪島さんのトークショー』(能登食祭市場)、リボン通りでは『なつかしの写真展』や七尾商工会議所での『のと・七尾元気まつり2011』など。

交流人口が減少する冬の時期に、地域の発展を考える農業や漁業、工業や商業などに携わる人たちが中心となり企画実施したこのイベント。雪の降る悪天候にも関わらず、大勢の人が詰めかけた。大阪から訪れた観光客は「七尾の魅力がギュツと詰まったイベントに感じた。ブリの解体ショーはすごかった!能登食祭市場から七尾駅に行く途中に、偶然こんなイベントが!こんなイベントがあったら、また来たい」と観光客にも七尾を知ってもらい、地元の人たちにも七尾を再認識してもらう機会となったのでは?!



『のと・七尾海鮮七輪まつり』



1月23日（日）：七尾市内

第65回を重ねた伝統あるこの大会。県内外から83チームが参加し、4人1チームでタイムを競った。コースは1周4km。雪などの天候が心配されたが、時折晴れ間がのぞく中、開催された。スタート時の選手は、寒い顔もせず、走るコースを一点に見つめ、パーンという合図とともに猛烈なダッシュを見せた。そこからは、次の選手に押をつなぐだけを考え、必死の表情。次々とゴールする選手の表情は、すべてを出し切った顔。目標を達成したチームもあれば悔しがるチームもいた。しかし、選手が体全体で表す姿が周囲の観客に感動を与えていた。

第65回石川県耐寒継走大会 七尾大会

～押につなぐ想いをつなぐ～



1月23日（日）
武田きのさん誕生会

1月25日（火）
山元はつさん誕生会

1月23日と25日に、100歳の誕生日を迎えた人がいる。23日の誕生日は武田きのさん。100歳とは思えないくらい元気な武田さんは、今でも炊事洗濯をして1人で生活している。和倉温泉で開かれた誕生会では24人の家族に囲まれ、満面の笑みを見せ、「みんなに感謝」と話した。25日の誕生日は山元はつさん。武田さんと同じく明治、大正、昭和、平成と激動の時代を過ごした。施設の入所者に囲まれ、ほのぼのとした誕生会が行われた。長男の山元政一さんは「大変我慢強い人だからこそ100歳を迎えられたのでは。皆さんに感謝をしたい」と誕生会に参加した人たちに感謝を述べた。武田さんと山元さん、本当におめでとうございます。

武田きのさん、山元はつさん 100歳おめでとうございませう。



2月2日（水）：石崎保育園

今年も各保育園で豆まきや恵方巻き作りが行われた。豆まきでは、子どもから見れば大きな鬼が子どもたちを捕まえようと走り回り、子どもは泣きながら必死に逃げ回る。豆を握り締めているのに、もう『鬼は外』をする余裕さえない表情。その後、園児が恵方巻きを作り、南南東に向き無言で願いを込めながら一気に食べた。食べ終わった園児からは「息できなかった」と、願い事を想いながら食べたかは？？？だった。

豆まき&恵方巻き作り 石崎保育園

～『鬼は外』どころではない～



1月30日（日）：七尾総合市民体育館

毎年、この時期の恒例行事となっている子ども卓球大会。今年で44回目となる歴史あるこの大会。参加する子どもの親も「昔はこの大会に参加して、各地区の優勝者と試合をしたのを思い出す」と話す。今では親子で出場を経験する名誉ある大会となっている。参加する子どもたちは各地区で練習してきた成果を発揮するため、少し大きく感じる卓球台に向かい闘志溢れる試合を見せた。昔とは違い、少子化の影響で、誰もが参加できる大会となったが、卓球台に立つ子どもの闘志は今も昔も変わらない。

第44回七尾市子ども会連合会卓球大会 卓球少年・少女が激突～



2月11日（金）：いしかわ子ども交流センター七尾館

ビームライフル競技って？！認知度はかなり低いのでは？！国体の正式種目に採用されているビームライフル競技。しかし、県内の高校では4校、能登の高校では1校と非常に少ない。『いしかわ子ども交流センター七尾館』では、この珍しい競技を体験するイベントを5年前から実施。重さ5キログラムのライフルを使用し、10m先の小さな的にめがけ点数を競った。「重いし、なかなか的に当たらないし難しい」と言いながらもさすがは子ども。打つたびに、的にあたり高得点を出す子どもがいるなど、珍しい競技に終始興味津々の子もたちだった。

ビームライフルに挑戦！ 志賀・高浜高校の生徒と交流～



2月2日（水）：朝日中学校

武士の時代に行われていた元服の儀にちなんで、14才になった人を祝う立志式。朝日中学校では2年生53人が立志式に参加。澤田祐一校長は「社会人になるまで、さまざまなことに挑戦し、自分自身を磨き上げてほしい」と激励の言葉を贈った。生徒代表木森喜大さんからの誓いの言葉では「見守ってくれた人に感謝し、行動に責任を持ち、心身を鍛えます」とこれからの決意を述べ、53人の生徒一人一人が同じ決意を持った顔をのぞかせた。その後、韓国人留学生のヤン・スンイルさんが『必要とされる人間』というテーマで特別講演を行った。

立志式 朝日中学校 中学2年生の誓い～